

第6回 滋賀県観光事業審議会 議事概要

1 日 時：平成30年11月22日(木) 10:00～12:00

2 場 所：大津合同庁舎7階 7-B会議室

3 出席者：(敬称略 50音順)

○委員：石川 亮、石崎 祥之、伊吹 惠鐘、岩田 春美、上段 貴司

金子 博美、川戸 良幸、田中 治男、殿村 美樹、羽田 真樹子

人見 能暢、宮川 富子、吉井 茂人、吉田 満梨

○オブザーバー：村上 良明、江川 寛、西川 直治

<開 会>

江島商工観光労働部長あいさつ

○「第6回滋賀県観光事業審議会」の開会にあたり、一言、ごあいさつを申し上げます。本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝する。

○また、平素は本県行政、とりわけ観光行政の推進にご理解、ご尽力をたまわり、お礼申し上げます。

○平成30年もいよいよ8か月、3分の2が過ぎようとしている。私ども商工観光労働部では、今年度、観光事業の振興に力を入れて取り組んでいるところで、今、まさに大型観光キャンペーン「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」を展開しており、市町や観光事業者の皆さんと一緒に観光客の誘致に取り組んでいる。12月末まで一生懸命取り組んでいきたい。

○いよいよ、滋賀県も人口減少局面に入ってきた。定住人口が減ってくると、地域の活力を維持するためにも交流人口の増加を図っていくことが非常に重要になる。まさに、観光の役割が大きくなっていく。観光客を増やすことや、宿泊客を増やすこと、そして観光消費額を増やすことに力を入れることが地域経営にとっても重要なことだと思っている。

○折しも、2020年のNHK大河ドラマが、本県ゆかりの明智光秀をテーマとした『麒麟がくる』に決定した。私どもも、この好機を捉えて、どのように戦略的に観光キャンペーンを推進したらいいのか、今、頭を捻りながら考えているところである。

○さて、委員の皆さま方には、昨年12月26日に知事から諮問されて以来、滋賀県観光交流指針の改定について、それぞれのお立場から幅広いご意見を頂き、ご議論いただいた。本日は、いよいよその答申案についてのご議論である。限られた時間ではあるが、委員の皆さまにおかれては、これまでの審議会での議論の成果を反映した、滋賀県観光のあり方を示した答申となるよう、さまざまな視点・角度からご意見をたまわるようお願い

申し上げる。本日は、よろしく願います。

(会長)

- 本日の議題は、お手元の皆さまの資料のところに配布されたとおりである。非常にシンプルで、議題は1個しかない。今まで2年間にわたり積み重ねていただいた議論の集大成が今日になるかと思うので、ぜひ、今までのご意見の中で「さらに、この点だけは」という積み上げをまた願います。あるいは「そういえば、この点だけ入れておかない」という点があったら、ぜひ、積極的にご発言をお願いしたいと思う。
- 本日の会の終了予定時間は12時を予定しているので、委員の皆さまには、いつもどおりの会議の進行にご協力賜るよう、よろしく願いたいと思う。
- それでは、早速、議事に入らせていただく。議題1『健康しが』ツーリズムビジョン2022（滋賀県「観光交流」振興指針）答申（案）」についてである。これについては、原案と第5回審議会で示された素案からの変更点等について事務局から資料をご準備いただいているので、事務局から説明を頂いた後で、先ほど申したように、委員の皆さまからの言い残しがないように、ぜひ率直なご意見を賜りたいと思っている。よろしく願いたい。
- それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

議題1 (1)『健康しが』ツーリズムビジョン2022(滋賀県「観光交流」振興指針)
答申(案)について

事務局より資料1～6について説明があった。

委員意見、質疑

(会長)

- 前回、第5回の審議会で意見をいただいたものを、今月末に答申予定になっているが、こちらの素案に、今、ご報告があったとお書き加えさせていただき、最終案に近いような形でまとめさせていただく。さらに、今日、これでいいかというご確認を皆さまから頂くとともに、先ほど、私の方から申し上げたように「そういえば、これ、抜けているよね」という点があったら、さらにご指摘を頂きたい。
- 要は、今まで集大成の議論とさせていただきたいと思うので、ぜひ、忌憚のないご意見をさらにお寄せいただき、最終的に完成度の高い答申案として知事に答申させていただきたいと思うので、いつもと同じように時間の許す限りどなたからでも結構なので、お気づきの点、あるいは補足の点があったら、ご発言いただければと思う。

○こういう答申になると、どうしても総花的で、いろいろ入っているが分からない話があるかもしれない。逆に言うと、いろいろなものを網羅するのがこういうものの一つの特徴かと思う。その辺を理解いただき、「この辺を突っ込んだらいい」とか「もう少し言い方があるかな」というところがあれば、その点も合わせてご指摘を頂ければと思う。

(委員)

- 皆さんの意見を聞いて、うまくまとめていると感心している。一つ、いろいろな統計資料が出ている中に「地域ブランド調査」が出ている。ほとんどの数値が下降している。こういった中で、なぜかという原因が何かあるのだろうが、そこをこれから上昇していく、具体的なものはこれだということを探したい。
- そして、二つ目は、統計資料の中で、滋賀県の自然公園面積割合が全国1位である。その辺の統計的なデータは、ビワイチがかなり押し上げているのではないかという気がする。その辺のPRの仕方と整備状況をこれからやっていく必要があり、具体的な事業として伸ばす余地があるとデータを見て思った。

(会長)

- 今、とりあえず意見は全部頂いて、最終答申にどういう形で入れさせていただくかを私と事務局で相談させていただきたいと思う。今は広く皆さまからの意見をまず頂いていきたいと思う。その上で、もし、お時間があって、事務局の方から「何か回答がほしい」ということであれば、後ほど、まとめて答えられるところは事務局から回答をいただいてもいいかなと思っている。時間も限られているので、ぜひ、どんどん意見を出していただければと思う。

(委員)

- この議題に関連して、私はこの会議の前に、今まで行ったことがなかったので、サイクリングの多いしまなみ海道に、琵琶湖のビワイチと比較してどんなものかなと思って勉強がてら旅行してきた。しまなみ海道がメインで、尾道からしまなみ海道へ入り、最後、鞆の浦まで見てきた。
- 非常に景色のいいところで、そこは琵琶湖と共通しているところである。まず驚いたのは、尾道と愛媛県の松山が橋で結ばれている。まさに、結んでいるというか、必然的に結ばれている。尾道から広島県をまたいで三つ橋がある。広島、愛媛、これが結ばれており、それぞれの島に観光名所が全部ある。
- その中で感じたことは、うまく連携ができてきていること。一つ目は、尾道に行ったときに

千光寺公園という公園がある。景色がいいということで、そこのロープウェイに乗ってきた。そこでたまたま出くわしたのが、外国人の旅行者であった。当然、予定であったと思うが、広島民放テレビが取材をやっていて、オーストラリアの人であったが「眺めは、どうですか」という質問をされて、それに対して「ビューティフル」という感じで、英語で言っていた。それは、当然、テレビに流される。そういった媒体の使い方をされているのが、ヒントとしてあった。

○もう一つが、しまなみ海道へ行ったら、日本人より目に付いたのは中国の方、それから韓国の方が圧倒的に多い。それも、自転車をバスに載せて、バスで移動して、そこから回る。だから、スタートから自転車ではなく、バスで移動している。景色のいいところだけを自転車で回って、またバスで移動する、こういう方法を探っている。これが二つ目である。だから、滋賀県も、確かに「ビワイチ、ビワイチ」と言うが、琵琶湖を1周するとなると体力が相当要るので、観光バスを使って、うまく琵琶湖をアピールする、ツーリズムの立場からするとそういう方法もいいのではないかなというのが、二つ目の印象である。

○三つ目は、今治市の何とか館というところが幾らでもあるが、そこへ行くと、アンケートというか「どこからおいでになりました」というのを必ず聞くのである。それを統計としてとっている。

○それから、何でもない普通のお土産物のお店に買い物に行くと、おばあちゃんが出てきて、帰りに「どちらからおみえになったか」と必ず聞くのである。そういうふうに、旅行者に対して当たり前のように聞いてくる、それを自然に聞いてくる。やはり旅行者を迎え入れる気持ちというか心構えが、たぶん、80 を超えていらっしゃると思うが、お年寄りの方にもできているので、すごく感心した。それは、鞆の浦だった。そういう観光客を受け入れる気持ち、心、そういうものがすごくうれしかった。それが、私の印象である。

(会長)

○ほかにいかがか。先ほども、申し上げたが、どういう形で答申に入れられるかはあるが、今、頂いた意見は何らかの形で生かしていただきたいと思う。今のご発言のように、何かお気づきの点があったらどんどん出していただければと思う。

(委員)

○非常によくまとまってきたなと感じたが、1点、気になったというか、私自身の了解も含めてお話し申し上げたい。基本方針に「観光を架け橋に、つなぐ滋賀、つづく滋賀」。

一体、何をつなぐのか、何が続くのか。SDGsが出てきてはいるが、こここのところが基本方針になるので、ここがきちんと押さえができていないと、そこから戦略が生まれてくるということだと思うので、もう一度、こここのところはきちんと確認しておく必要があるのかなと思う。

○私なりに、了解したのは、全体を見て、つなぐというのが、東西各県の文化の接点という、文化をつなぐというものがあろうかと思う。地理的な優位性を生かす。それから、例えば、人と人をつなぐという、これも心というところに来るのかと。滋賀県での観光の強味としては、神社仏閣、あるいは、それに支えられた滋賀県の心、優しさというのか、ここからおもてなしというところに展開されていくと思う。

○そうすると、人と人をつなぐ。つまり、来られた方、あるいは滋賀県民同士がつながっていくという、その「つながる」の背景には、宗教的なものとか深いものがあると思う。それから、歴史や文化の中で、コーポレート・ガバナンス、来られた方に来てもらったらいというのではなくて、そこにはガバナンスが働いている。その精神が近江商人の三方よしという、滋賀県の歴史に育まれてきたもの。

○それから、環境。非常に素晴らしいなと思うのは「琵琶湖は預かり物です」という言い方をしてきたときに、自分たちの琵琶湖ではなくて、先祖から、あるいは子孫からの預かり物だという、これが滋賀県の心だと思う。そうしたものが続くという、それがサステイナブル。そこで、自然や健康など、いろいろなものにつづく。健康というのは、何も人間だけではない。そうしたときに、サステイナブル、イコール健康を言っているのかなと思った。そういうものが、総体としての滋賀らしさを前面に出したものになると思う。

○その総体が、まさに、日本遺産になったと考える。そうすると、例えば、お隣の京都だと「これ、結構、共有できるよね」と、そういうものが感じられるといったことも含めて、私の解釈で申し訳ないが、もう一度、つなぐという言葉が共有できたときに、皆さんが、何をつなぐのか、そのあたりがもう少し書き込んでいただけたらなという気がした。私の受け止め方が違っているのかもしれないが。

(会長)

○こうしたらという前向きな、建設的なご意見をたくさん頂いているので、引き続き、ほかの委員の皆さまからも同じように、何でも結構なので、まとめでも結構だし、付け加えても結構なので、できる限り、時間の許す限り、広くご意見を頂きたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

○私はPRの専門家なので、キーワードについて、これからは日本国内だけを考えていても仕方がないと思う。国内については、以前のように「近江」とか「琵琶湖」というワードがなくなり「滋賀」に統一されているので、イメージが統一されて、先ほどあった魅力度ランキングにおいても効果的になったと思う。

○しかし、今後、世界を見たときに、別のキーワードが要ると思う。たとえば「健康しが」に「healthy shiga」と英語のキーワードを横に入れておくなど、今後はそういった工夫が必要ではないかと思う。世界に通じるキーワードをまず滋賀県から示すことで、県民への方針説明にも役立つと思う。

(会長)

○今度は、外に向けてという意見である。新たな視点を頂いたかと思う。

(委員)

○前回の審議会の内容を踏まえて、今回の提案内容は、非常にうまくまとめていただいた中身だと思っている。今後、この答申がまとまった後、具体的にこの事業の取り組みを進めるにあたって、今回「『健康しが』 ツーリズムビジョン」ということでもあり、仕事柄、世界の、いろいろ各地のデスティネーションを見てみると、われわれ日本人のいつまでたっても憧れのハワイが、健康をテーマにこの5年、10年、観光客を非常に伸ばしている。今現在、世界中のお客さま、年間約950万人の方がハワイに訪れている。そのうち、日本人は150万人前後。今年も158万人の人が行かれると思う。この4～5年、毎年10%アップしている。

○その一つの要因が、健康をテーマにしていること。その一例として、アサイーボウルというものが朝食で食べられるとか、スムージーなどフードツーリズムを具体的に生かしたような取り組みをしている。

○それから、もともとハワイにはホノルルマラソンがある。われわれも、琵琶湖でハーフマラソンやビワイチのロードバイクレースであったり、いろいろな努力をしている。そういったことを考えると、われわれが滋賀県でやっていることと、ハワイで観光客が伸びていることと「健康しが」がつながってくるのかなと思う。

○世界のグローバルなデスティネーションを見ている中で、われわれに近い取り組みをしている、考え方も同じところの先進事例をうまく活用するのは、今後、取り組みを進めていく中では重要なのかなと思う。

(会長)

○今のことは外国でという話で、さらに健康というキーワードと合わせた形でという見解、方向性を示しいただいたと思う。

(委員)

○今のお話で言うと、以前は彦根でもアイアンマンレースというものがあつた。その際、私はホームステイでオーストラリアの方をお引き受けしていたし、海外の方が来てにぎわっていた。時代は変わりスポンサー等が付かなくなり、残念ながら終わってしまった。

○でも、ああいうことが続けられていたらいいのにといつも思う。今、鳥人間なども彦根でやっている。市町では困難なところもあつて、難しいなという声が周りから聞こえてくる。

○せっかくメディアに取り上げられて、海外からも人が来ていいことをやっていたが、だんだん消えていく。どうしたら食い止められるのか、一市民だけではどうしようもない。県の取り組みの中で継続できる方法を何か考えていただきたかつた。今のは過去を振り返つた話である。

○これからは、ホテルのロビーでフラダンスの教室をやっていたり、ハワイアンキルトを経験して、はまってキルトの布を買いに行つたりと、何かアクティビティみたいなことや趣味があると、継続して行きやすい。私は、リピーターが大事ではないかと思う。そういうところで何かできないかなと思つた。

○もう1点は、今月、福井で中央会の近畿大会があつた。福井はすごく滋賀県に近い。湖北の方はお買い物も敦賀に行く。経済の流通はすごくつながっている。滋賀県には海がないので、私たちの子どもの頃は、敦賀にその日に揚がつたお魚を昼ごろおじさんが持って来ていた。そういう生活の中でのつながりがあつた。

○皆さんは鯖街道はご存じだろう。つなぐという部分では、滋賀県独自でいろいろなことを考えるのではなくて、日本海から太平洋までの真ん中に滋賀県がある。三つの街道もうまく利用して広域でつながれるようなものがあればもっといいかなと思つた。

(会長)

○これからやっていく上でのイベントがあるので、それをどう継続していくか、これは大きな課題である。実際にやられた経験から、難しさを克服して、さらに発展させるかというお話。

○それから、先ほど、「つなぐ」と「つながる」というところ、そこにはいろいろな意味がある。意外と見過ごされている地域同士のつながりを掘り起こすことが、ひょつとしたら

新たな鯖街道みたいなものもできるかもしれない、という指摘であったかと思う。

(委員)

- 大変よくまとまっているので、けちを付けることはない。ただ、私が引っ掛かった部分だけお話しする。
- 資料4の10ページ。この上に戦略のマップがあり、この戦略①だけに「健康」という言葉が入ってくる。「健康」という言葉は全てのキーワードにつながっているものなのに、ここだけ入っている。ここは「長寿を支える『食』で誘う」ということで、長寿という意味には、人間の寿命だけでなく、自然、歴史、文化も長寿である。健康だけが長寿ではないことで、この「健康」は全部のキーワードにつながるの、ここであえて「健康長寿」とうたわなくても「長寿」だけで、いろんな意味につながるかなというのが一つ。
- それから、12ページの戦略③で「受け継がれる暮らし・文化に触れる」となっているが、私も「つながる」から「つなぐ」に変えた人間として、ここが「受け継ぐ暮らし・文化」とすべきと思う。
- 文化は昔のものだけを引き継ぐものではなくて、新しく生まれてくるスポーツやアクティビティもある。現在も、なおかつ未来につながる言葉として、「受け継がれる」と言うと、過去のを次の世代にというイメージになる。ここも積極的に「受け継ぐ暮らし文化」に変えると、過去からつながっているものもつないでいけるし、現在も、新しく生まれいくこともつなげてできるのではないか。「将来、こんなことしておきたいよね、したいよね」ということを今からつくっていくことも、積極的な意味が出るので、ここはそのような意味として、一度検討していただきたい。
- また、13ページの上で、新しい文章を加えいただいた「外国人旅行者に向けて」ということで、湖畔リゾートイメージの発信とある。「湖畔」だけになっているが、ここは「山」「里」も入れて、「里山・湖畔リゾート」がいいと思う。琵琶湖汽船は湖畔だけでもいいが、里山も琵琶湖汽船にとっては大事な、重要な資源だ。ここは「里山」と入れてほしい。
- また、15ページに地図が入っている。この地図の中に、願わくばなのだが、先ほど、鯖街道の話もあったが、若狭、小浜から渡来文化が入ってくる。この北陸の矢印の左側に、もう1個、左から右に流れる矢印を付け加えてほしい。大変小さな話だが、イメージとしては山陰がほったらかしになっているようだ。これは北陸文化と一緒にだ。入れておいてはどうかということである。
- それから、17ページの「多様な主体が一体となった協働体制の整備」の中で、現在、心身障害者とか、LGBTは、ユニバーサルデザインとか、ボランティアとかNPOという中に含まれているかも分からない。ただ、これからのツーリズムの中では、これらの人や

貧困者、要は、旅行する人は、金持ちやある程度豊かな人だけが旅行するのではなくて、貧困な生活をしている人でも旅行であったり、レジャーであったり、人との触れ合いが非常に大切であるということ。そして、老若男女の問題だけではなくて、所得の格差なく楽しめるように、受け入れ側もそういう人たちをユニバーサルデザインで迎え入れるだけではなくて、観光という産業を通じてそういう人たちが仕事ができるとか、人との触れ合いに意味があると、どこかそこにつながるような言葉を入れていただいたらありがたい。

(会長)

○大変多岐にわたる詳細な、非常に的確で、なおかつ厳しい指摘であるが、どれもできる限り最終答申に生かす必要があるかと思った。事務局の課題がどんどん大きくなるが、ぎりぎりまで努力させていただきたいと思う。

(委員)

○今、おっしゃった「長寿」というのは、寝たきりの長寿もある。「元気な長寿」という意味合いの、「健康長寿」という表現だが、「健康」、「健康」と重なるので何か新しいいい言葉で表現できたらいいと思う。

(会長)

○貴重なご指摘、ありがとうございます。言われるとおりでと思うので、そのようにしたいと思う。

(委員)

○今の「健康」のキーワードだと、先ほどの海外発信のキーワードの話で、一つアイデアである。

○ここで「健康」という言葉が何回も出てくるときに、前回から気にしていたのは、若い人には響かないのではないか。すでに健康なので、自分たちには要らないと思わないかなと思った。この審議会を通じて、皆さんが滋賀の良さを話して、すごく勉強している。若い人に刺さる要素を持っている地域だなと思っている。「健康」の言葉の言い換えとして「health」より「well-being」という言葉が合っていると思う。意味合いとしては「良く生きる」とか「自分らしく生きる」とかも含まれると思う。それは身体的な健康だけではなくて、精神的な健康にもつながるので、結果的に健康寿命が長いという意味だと思っている。

○それは、おそらく、歴史とか文化が暮らしに根付いて生きていたりとか、先ほどの環境にも配慮して、水を守る民として生きています。SDGsとよくつながるキーワードだと思っ

ている。

○そうすると「つなぐ」というキーワードの話がいろいろあったが「続く」という持続可能性と極めて親和性が高いことを議論していると思った。

(会長)

○Well-beingは答えではないが、「どうしようかな」と思っていたところに、いいアイデアを頂いて、事務局もほっとしたのではないかと思う。

(委員)

○先般、10月16日の審議会で、古民家の空き家対策の意見を述べた。行政側も同じ考え方だったようである。10月29日のNHKの番組『おうみ発630』で放映された「一夜限り、歴史文化財に泊まり、地元料理を食す」と銘打って、外国人観光客などを呼び込んでいこうと、金堂の町並みの古い屋敷を宿泊施設や飲食店として有効活用する実証実験が、この11月28、29、30日と3日間、開催される。

○東近江には観光材料がたくさんあるが、これまでにない方向でアピールして、多くの人に訪れてもらいたいという趣旨で行われるそうである。ボランティアガイドとして、京都あたりで騒がれているオーバーツーリズムになれば、情緒ある風情はどこかへ行ってしまう。先人たちが残された、凜とした金堂の街並みが失われてしまうのではないかという懸念がある。

○近江八幡や彦根などの観光地とは異なっていて、静かなたたずまいを望んでこられる観光客が多いのは確かである。また、来年2月、3月には「ひなめぐり」という行事も催され、それは22年間続いている。宿泊施設として常設化されてしまうと、それは消えてしまうのではないかという、私たちガイドとしての懸念がある。28、29、30日と実証実験が行われるので、ここで報告する。

(会長)

○これも観光の非常に重要なテーマである。Authenticity、正当性みたいな話である。本来、地域の方のためにそういう形であったものが、観光化されることによって内容が変容してしまう、それでいいのかという、観光の根本に関わるコメントであったかと思う。大きなテーマである。どう取り上げるかは難しいが、ご意見として頂きたいと思う。

(委員)

○これができたとして、たとえば私が滋賀県以外からの観光客だとして、滋賀県を眺めた

ときに、何を魅力と思い腰を上げることになるのか。それを「健康」や「well-being」とし、いろいろな方面で興味を持ち行くことになったときに、「どのように周遊したらいいのか。」今のままでは、不案内に困るのではないか。

○それぞれやれることが、この中にちゃんと盛り込んでいるが、それをそれぞれのご希望にそって組み立てて提供してあげる、来る人にとって滋賀県を訪れ楽しむ方法をご提案するところだけは、まだまだ弱いかなと思った。

○人気のあるところは、そういうインフォメーションなどの仕組みが素晴らしい。分かりやすく、手軽に体験できるようになっている。そういうところがまだまだ弱いので、それを盛り込めるようにできたらなと思う。

(会長)

○観光資源には恵まれているが、それをどう商品化していくか、もう一步、踏み込んだところの必要性の意見を頂いたかと思う。

(委員)

○滋賀県は、文化や食、歴史もあるし、いろいろないいところがたくさんある。しまなみ海道の話もあったが、私も、先日、尾道に行き同じようなものを見てきた。尾道も歴史的なまちで、日本遺産にも、村上海賊、箱庭的都市、北前船の寄港地の三つが登録されている歴史的な古いまちである。その中で、市長さんが言っていたのは、なぜ皆さんが尾道に来ていただけるのか。それは、新旧のデザインの魅力があるのではないか、ということ。それは、しまなみ海道に代表される多島美もそうであるし、島と島を結ぶ橋もそうである。橋を使ったサイクリングのイベントもそうだ。

○あそこはDMOの組織もしっかりと活動されている。その舞台を使って、民間の方々が村上海賊をモチーフにした「海賊むすび」というおむすびをつくって、いろいろなところで売っている。あるいは、しまなみ海道の全長 70 キロの中で百何か所、休憩をするところがあって、おもてなしというものが充実している。

○サイクリストというと、スポーツの方々をイメージされるが、世界のサイクリストの聖地と言われているが、これからは、そういうところから、もっとのんびりと、観光もしながら自転車に乗っていただけるような人たちを呼び込んでいきたいということで、地元の取り組みをされていることもある。

○先ほど「デザインの魅力」と言ったが、古いものと新しいものをうまく融合させていくことを、まちづくりの中でも気にかけてやられているとのことなので、滋賀県においても、そういうことも参考したらいいのではないかと思う。

○もう一つは、オーバーツーリズムの話もあったが、お隣の京都が非常に観光客が増えている。弊社でも、京都駅が非常に混雑していて課題になっている。尾道に行った際にANAの方と話をしたときに、外国人観光客は、以前はゴールデンルートをメインに来られていたが、今は、混雑するところにあまり行きたくないという方が結構おられる。行ったことのない日本に行きたいという需要も、かなり生まれてきているのではないかと。

○ある方は、韓国に来て、そこから徳島に渡って、徳島の三好というところに行って、そこから愛媛に渡って、しまなみ海道で尾道へ行って、山陰に行って、米子空港から帰る、そういう旅行をしている方も結構増えてきている。混雑していないからこそ訴えられる魅力みたいなものがあると思う。そんなところをもっと発信していければいいかなと思う。

(会長)

○関空のインフォメーションでも、まさに、後半で言われた傾向が関空の案内所に行ってもあるという話があった。あとは、市街のアクセスが確立され、プラス、実際の商品化ができれば、滋賀のポテンシャルがさらに生かせるのではないかと、という話になろうかと思う。大変夢のある話で、良かったなと思う。

(委員)

○日々、お客さんと接する現場で働いている者として、例えば新しいものをするときに、不安も伴うが、自分がわくわくするかということを確認する。わくわくを伴う多忙は笑顔で乗り切れる。

○この子たちも最初は自分が無知ということもあって、漠然としたものが、だんだんとビジョンが固まってきて、最初にこれを見たときに、あんなこともできる、こんなこともできるとわくわくが見えてきたので、この過程に携わることはいい経験だったと思う。

(会長)

○答申に至って、その後の課題は同じような感動というか、わくわく感をどうやって、これを読んだ方に理解していただくか。そこが次のステップとしては重要である。われわれも戦略みたいなものをここでつくっていると思う。

○では今度は戦術レベルに落とししたときにどうするかというところが、この答申を受けての各地域の課題であり、滋賀県の流れであると思っている。ぜひ今のような形で、こうしたらいいという具体例みたいなものがあたらご指摘いただきたい。

(委員)

○学生と一緒にいる時間が長いので、新しい世代にどう受け継ぐのか。今回、書いてあるが、何となく雇用を生むというところまでは、まだ難しいかなと思う。次のステージなのだろうと思う。若い世代がここで働こうと、ここで観光を、健康のテーマの中で、滋賀県で働きたいなと思うような取り組み方。そういうことがもう少し反映された文章になっている方がいいのではないかなと思う。具体的にはここというのは見つけづらいが、最後の方に学生と少し入れてくれたのだな、というもある。

○雇用促進を目標にする。今の、このプランの中で持続するのだと。他府県から来てこちらで学んでいる学生が、滋賀県は面白い。ここで観光や健康、そして環境を学びながら、こういったところで自分は仕事をしたいなと思わせる、そういうことも反映されているようなものになった方が、それで若い子が喜んでいる、こんな面白い県に行きたいと、周りの人が思う。わくわく感というものが、若い人の働き方で伝わっていく。そういうことも大事なかなと思う。

(会長)

○UNWTOの定義では、旅行者は1年以下の期間のものとなっている。20年ぐらい前に京都で修学旅行の議論をしたときに、京都は学生のまちだということで、学生もある意味で旅行者として取り上げてもいいのではないかなという話があった。4年間は長いので、UNWTOの定義には当てはまらないが、期間限定でいて、それでいずれまた何らかの思い出を持って帰ってきてもらえるという点では、ある意味で非常に有力な、地域にとってのリピーターである。

○だから今言われた、先生の大学もわれわれの大学もこの滋賀に立地して、たくさんの学生が学んでいる中で、そこで4年間で何かを得ることによって、アユやサケが戻ってくるような点では、これも一つの、さっきの鳥人間のお話もあったが、技術者となって戻ってくるかもしれないし、あるいは外国人を連れて戻ってきてくれるかもしれないみたいなところが、これも非常に大きな外国人、非常に大きな滋賀県のテーマになるのかなとは思っている。

○今ご指摘いただいた、このポイント、あるいは、他の方の、委員さんから意見に関して、そういえばこういうようなところの見方もあるのではないかな、ということを含めて、何でも結構である。もしあったら順に出していただければと思う。よろしく願います。

(委員)

○先ほどから戦略と戦術という言葉が出ている。戦略はこれで十分だと思うが、あとは戦術、具体性。ではどういうふうこれを具体的に進めるのかという問題だと思う。そこら

をもう少し具体的に。例えばこの前、私が旅行に行ったときに使ったのは、実は新幹線で、尾道まで利用した。さくらとこだまで行き、そこからレンタカーを借りた。なぜレンタカーを借りたか。当然、しまなみ街道を、まさかサイクリングで行くわけにはいかない。

○ここに初めて、会議でお邪魔したときにもその話をしたと思うが、私は京都にいて、そのときは東北から私の親戚が来ていて、レンタカーを借りてということで、大型レンタカーを7人で京都市内を見物した。レンタカーは非常にたくさんの人を運べるし、そして非常に便利で、いろいろなところを回れる。観光バスだと決まった所しか行けない。

○だから、レンタカーを考えたときに、この審議会にレンタカー会社の方は誰もいない。でもレンタカーはすごく重要なポイントである。旅行の足である。滋賀県のレンタカー会社で見ると、大津の駅前を見ても、彦根もそうだし、長浜もそうだし、あまりはやっていない。ほとんどがフォービジネス、仕事なのである。レジャーでレンタカーを借りる人はあまりいないように思う。

○京都の場合は逆で、ほとんどが観光。そこが、滋賀県と京都の違いがあると思う。だから、滋賀県はビジネスホテルが多いということもそうだと思うが、観光に向けて何かチャレンジしようと思ったら、その受け入れ体制の中で、滋賀県はアクセスが悪い。これははっきりしている。東海道線は琵琶湖をグルッと回っているだけで、あとは近江鉄道。これではどうにもならない。だから各要所、ポイント、ポイントをつなぐにはレンタカーというものは重要だと思う。

○これがもし高齢化が進むと、お年寄りの方は、東京から滋賀県まで絶対に車で来ない。京都まで新幹線。あるいは米原。そこでレンタカー。その流れをしっかりとつくっていく、そういうPRをしていく。レンタカーを使えばこんなに琵琶湖1周、例えば6時間で、5時間で琵琶湖を1周できる。自転車ではなくて、私も何回も車で琵琶湖を1周している。非常に面白い。だからそういうチャレンジも、私はあっていいと思う。だからアクセスの面をもう少し、レンタカーという部分を考えてやっていったらいいのではないか。

○それから、京都をもっとうまく、京都のレンタカー会社さんにアピールして、滋賀県も一緒に回ってくださいというパンフレットを置くとか、そういうことも一つの方法だと思う。

(会長)

○アクセスという交通の、観光に非常に重要なポイントになるとご指摘をいただいたが、いかがか。特に指摘するわけではないので、先ほど言ったように、今日が事実上の最終の審議会になるので、言い忘れのようなところ、これだけは言っておきたいことがあればご指摘いただければと思う。

(委員)

○どンドン話が枝の方になってしまうかもしれないが、レンタカーの話も出たので関連することで少し。レンタカーや車で滋賀県にお越しの方で困られるのが、「その地に駐車場があるのかないのか。」「すごく眺めのいいスポットに車が止められるのか、止められないのか。」それをわかりやすくした方がいいと思う。道からはすごく眺めがいいけど、そこで車を止めて、景色を眺めたり写真を撮っていたら大迷惑みたいなのが結構あると思うのでそのあたりを整備することも必要になってくる。

○観光のお客様を受け入れるのであれば、整備もまた大事になってくる。そういうところの見直しや洗い出しも大事なと思う。

○それと、景色などを「ここから見るのがおすすめですよ」、みたいなことを提案することも、観光で人気がある世界のいろいろなどところでは、割と積極的にやっていると思う。

(会長)

○泊まれたお客さんに、ここを行ったら車が止められるのかという質問は、結構、日常的に出てくるか。

(委員)

○そこだけ具体的にということはないが、フロントでいろいろ聞かれる。車で行ったら何分かかかるかとか、駐車場は有料か無料か。止めるとしたらどの辺りに止めたらいいかとか。

(会長)

○ナビがあるからそこまでは行けるが、そこに車が止められるかどうかという、もう一歩、進んだ、ある意味で情報も必要かという話である。

(委員)

○これからの、もう一つ、知名度、認知度が上がらないということと、そういったところから、長浜でも来ていただいている方にヒアリング調査とか、ウェブ調査をいろいろやって、問題点を探し出している。県全体で思うのはエージェントという方々がお客さんを送っているが、団体客が減少して、個人客が増えているのはそれはそれでいいと思う。ただ団体客は消費を押し上げる。だからなんで滋賀県はあるいは長浜はお客さんが減少しているのか、1回分析する必要があるのではないかと。観光バスが今、年間2,600台ぐらい減っている。

○そしてもう一つ、水辺の環境でいう、琵琶湖湖畔、ヨシとかいろいろなものが出てくる。戦国時代から長浜城しかり、彦根城しかり、安土城もしかり、坂本城もしかりで、水城である。だから、そういった歴史的な背景の中で、そういった水城がどういった目的で造られてきたか。そういったことをPRすることにおいて、歴史的な人とかそういったものが、また違った観点で見えてくるかなど。そういったところをもう一度、やってみる必要があると思う。

○最後にもう一点、たまたま本屋に行くと、『信長の原理』という本が出ていた。それは尾張から、どうやって信長が美濃の明智城の光秀を雇用し、召し抱えて、それで光秀が信長とどういう展開をしたか。その中に滋賀県の出城とか、お城のことも詳しく書いてある。だから参考までに、大河ドラマが始まる前に『信長の原理』は、結構、面白いので、紹介したいと思う。

(委員)

○今、学生さんの話が出た。そこで思ったのだが、滋賀県には、ここにも書いてあるように、もう無数の魅力的な資源がある。であるとすれば、それらを一つはこちらがパックにして提供するということもあるだろう。一方で自分が選択して、ハンドメイドのものをつくっていく。学生さんがわれわれにはない発想でそういう商品を開発するというのもあっていいのかなと思う。

○全然、話が違うかもしれないが、聞いていて思ったのは、教育テレビで、哲学者の三木清が言っていたが、無限にあるいろいろな要素から、いかにそれを集めていって、それを形成していくことが命なのだと。こういう難しい話だった。そうするとむしろこちらが与えるということも、これも一つの商品として大事かもしれないが、そこから自分でつくっていく。こちらは部材を提供する。それをどう組み合わせるのかも、それも含めるとこの中にある、そういう人を養成する。そういう考え方もあるのかなと思った。

(会長)

○委員が実際に今、大学の方で学生に企業と組んで商品開発をさせるという、非常に先端的な取り組みをされている。旅行、観光の商品が、そういう意味ではつくれるのではないかという意見だ。専門家の立場から、できるかどうかというコメントをいただければと思う。

(委員)

○旅行商品づくりに直接関わったことはないが、JR西日本さんの社員の方に、1回、来

ていただいて、ディスカッションしたことがある。そのことをどれくらいつまびらかにしていいかどうかということはあるが、そのときにやったのは、こういった旅行商品を考えている方と、今の学生の実情の価値観というものが、結構、乖離しているのではないかと、それを知りたいということに来ていただいた。

○そのときにやったのが、ターゲットにする役の学生を何人かつくり、他の学生はその子にヒアリングをする。それは私が教えている授業なので、そのトレーニングとしてカスタマー・ジャーニーマップというものを描いて、そのターゲットの人のものを描いて、要するに旅行を検討し始めるときから、旅行から帰ってくるときまでの消費の意思決定のプロセスを全部、事細かに調べていくという手法をやった。最終的にターゲット役、旅行者役の子に対して、他の人がこういった旅行プランはどうか、という提案するという演習が非常に盛り上がった。

○結果的にはそれがそのまま旅行商品になるというイメージよりは、たぶんそこから、全く今の学生たちが違う考え方やアクセスで旅行を検討しているということが、極めて可視化された、いい演習だったかなと思う。そういうことはいろいろなところで、私はマーケティングで製品サービス開発の前提のリサーチを教えるので、そういった取り組みをした。いろいろな専門の先生がいろいろなやり方で、おそらく可能ではないかなと思う。

(委員)

○実はうちもよく似たことをやっている。カスタマー・ジャーニーマップを作って、ターゲットを決めていくということもしっかりやるが、そういう広い視野で考えるということも大事だが、うちはどちらかというと、自分の感性から何か見つけていくところに、そこにすごく集中力があると思う。現地に行かせている。メジャーなものはもう分かっているので、自分がその場所で、光も当たっていないし何だろうというものを、まず見つける。その見つけたものに対して、もしかして歴史的な背景と結ぶかもしれない。あるいは全く関係ない、他府県で見られるような面白いお土産と、ぽっと見つけたマイナーなものが組み合わさったとき、何か面白いものになるのではないか。

○これはどちらかというと、アーティストが作品をつくっていくような考え方や、デザイナーがデザインの糸口にしていく考え方に近い。そういったところでやらせていて、結構面白いものが出てくる。

○新しいものと古いものを、お互いがどういうふうに共有していくか。若い学生が何か変なことを言いだしたら、それをうまく取り入れていく。そこから次に、それがどう雇用に結び付いていくか。その受け皿を寛容に見ていく。何を言っているのかということ

ではなく、「それは面白い。商品化してみようか」というチャレンジの準備もありなのではないか。学生はさまざまなひらめきや滋賀の魅力を別の角度から見つけ出しているの
で、それをどう出していけるかがポイントだと思う。

○来週、「ここ滋賀」でうちの女子学生数名が行って、滋賀の魅力を発表するイベントのチャン
スももらっている。そういうところで、学生の様子を皆さんに見ていただきたいと思
う。

(会長)

○理性的と感性的アプローチ、滋賀にはどちらもいける学生がそろっているということな
ので、これを活用していくのが、現実面で滋賀の観光を発展させる上では重要だと思
う。
○そろそろ時間が迫ってきたので、オブザーバーの方からも、それぞれご意見をいただき
たい。

(オブザーバー)

○私が今日のお話を聞いた中で感じたことをお話ししたい。一つは見え消しの9ページの
成果指標がある。これは滋賀県観光入込客統計調査をもとに、下にあるように、過去4
年間の平均伸び率等を基に設定して、非常に根拠のある数字かと思う。この数字自体は、
日本人、外国人の両方を含めたものだと思っている。
○中央の受け売りになるが、資料6の30ページに、これはもう何回も出ている資料だが、
「明日の日本を支える観光ビジョン」という目標数値の中で、訪日外国人旅客数は2020
年に4,000万人、消費額8兆円。2030年には6,000万人と、とてつもない数字を書いて
いる。一番下に、日本人観光旅行消費額があって、2020年は21兆円。2030年は22兆円。
中央の考えでは、日本人は人口減少もあるかと思うが、現状維持を必死になってやって
いこうというところである。外国人に関しては、まだまだ世界的な観光ブームもあるが、
ここを何とか取り込んでいき、日本の観光資源を発展させていきたい。
○昨日たまたま、JNTO（日本政府観光局）、統計等やっているところだが、10月の外国
人受入数の発表があり、2,640万人。これも過去最高の数字となった。1月から10月ま
では2,600万人。昨年が2,869万なので、単純にあと11月、12月、このままの勢いだ
と3,000万人は超えるかなと。あとプラスアルファはどれだけかというところだが、ほんの
あと2年で政府の目標は、オリンピックもあることから、4,000万人とすごい右肩上がり
の数字を目標にしている。
○ところで、その成果指標。これは足元を見た最低目標で、また違った、例えばこの宿泊
者数387万人、この中で外国人がどれだけ占められているのか分からないが、それに対

して 2,869 万人。去年の数字に対してだいたい何パーセントかという形で見ると、目標という意味では、もう少し数字を上げられるのではないか。また、関西という意味では、全国的にも外国人観光客を関西が引っ張っていると自負している。ケチを付けるようで申し訳ないが、数字自体は根拠があるのでいいかと思う。

○それから、レンタカーの件があった。われわれは旧運輸省、運輸局で、交通アクセスについては非常に関与している。指針の中に、県外からの交通アクセスは非常に恵まれているが、一方、最寄り駅から観光地、観光地から観光地までの所要時間が長く、交通利便性の向上が求められている。そこで、レンタカーというご発言があったかと思う。

○少し話はズレるが、われわれ国土交通省の出先機関に運輸局と地方整備局があるが、われわれ運輸局は公共交通機関を利用してほしいという立場である。地方整備局は河川や道路のインフラを整備している、同じ国土交通省の出先機関である。最近は勉強会、意見交換会で観光をテーマにすることがある。京都や大阪なら、われわれ運輸局としては、公共交通機関を使ってほしい、車を使われると困る。一方整備局は、例えば滋賀県の最寄り駅から観光地まで、観光地から観光地までというところで、整備局とわれわれの出番であり、実際にそういう地域では車の移動が現実的であろう。整備局は関西全体の広域周遊を促すためにも道路整備を着々と進めて、観光促進を促す立場であると言っている。

○そういう中で、運輸局と整備局が共に狙っているのが、実はレンタカーである。これもご存じの方はおられるかもしれないが、外国人向けの ETC カードがあり、実証実験もして、もう来年にするように聞いている。利用者にとっては、非常に便利だということを知っている。

○最後に 1 点。ユニバーサルデザインのお話があった。私は先日、たまたまテレビで見掛けたら、滋賀県のバスケットチームで、名前は忘れたが、チームの名前のところがユニバーサルデザイン的だった。マナー協会と連携して、お客さんに対してお声掛けをする。それがユニバーサルデザインという意味で、障害者の方だけではなく、ベビーカーを利用されている方、または外国の方に対して、一言「お手伝いしましょうか」という活動をされていた。それがプロスポーツ団体では日本初だという、それが滋賀で初めて行われたのである。

○三方よしということ、売り手よし、買い手よし、世間よし、滋賀にはそういう文化がある。これが観光について特効薬にはならないと思うが、ぜひこういうユニバーサルデザイン的なおもてなしの気持ちを広めていただければと思う。

(オブザーバー)

- 全国旅行業協会滋賀県支部だが、滋賀県には 100 社ぐらい旅行会社があり、今回この委員で J R 西日本さんとか、日本旅行業協会さんとかがおみえになっているが、そういった全国を網羅したエージェントではなく、まさしく滋賀県に、それもまた地域に密着した活動をされている旅行会社の集団で、協会には 78 社参加をいただいている。地域別に湖北、湖東、湖南、湖西と分かれていて、それぞれ十社から二十数社の旅行会社の方に会員として登録いただいている。
- その中で、地域と密着して地場の旅行をいろいろつくっておられ、発信し、集客されている方もいらっしゃる。戦略は大きく 3 つ、細かくは 9 つ作られて、戦術の部分で、協会の会員の皆さま方のお力をご活用いただき、われわれは微力ながら協力をする所存である。どうか遠慮なく、地域のわれわれの会員を通して、いろいろなものづくり、発信をお願いしたいと思う。

(オブザーバー)

- 資料 4 の 17 ページに載っているが、いよいよ県の指針ができる。それぞれの主体の役割ということで、ここに DMO の記載があるが、われわれはここに位置付けられていると確信している。ここにあるように、滋賀県における観光交流の振興を担う組織として、基本方針に沿った効果的な取り組みを展開するということで、これからの大事なこの 4 年間、この指針に沿った具体的な展開を県と一緒に展開したい。また、その次のポツに書いているように、観光地域づくりのかじ取り役として、しっかりと使命を果たしていかなばならないと思っている。
- その次の行に、戦略を策定すると書いている。現在、この県の指針を受けて、びわこビクターズビューローの方でも新たな 4 年間の中期計画を策定中である。その中で、県の取り組みの具体化をしっかりと位置付けていきたいと思っている。
- 2023 年には北陸新幹線が敦賀まで来るので、通過県になってはいけないということで、しっかりとしたビジョンをつくることとしている。皆さんのお力を借りながら、しっかりとやっていきたいと思っている。
- 意見の中に、地域ブランド調査のこともあったが、12 月 18 日にブランドの調査機関を呼んで研修会をする予定にしている。ご興味のある方は、ご出席いただければと思っている。
- あとはエージェントのお話があったが、ビューローの方でも、旅行会社の商品企画造成担当者の方々を現地にお招きし、いろいろな意見交換をしている。また、ビューローが中京地区、中国・四国、あるいは首都圏に出掛けていき、エージェントの方々と意見交

換する場も持っている。これからしっかりとやっていきたいので、皆様のご支援をお願いしたい。

(会長)

○ODMOとしてのビューローの役割に、ますます期待が高まった。今日議論した、この戦略を決めた上で戦術をどう展開していくかというところで、デザインのお話もあったが、もうすでに具体的なプランが動いているようだ。ぜひ相乗シナジー効果が出るように、お願いしたい。いろいろな情報提供を含めてご意見をいただき、感謝している。

○それでは、今日予定していた時間となった。今日もまた多岐にわたる、非常にレベルの高い意見をたくさんいただいたので、私と事務局の頭の痛いところではある。先ほどお示ししたスケジュールだと、11月30日に知事に答申させていただくということで、原案をまとめたい。原案の取りまとめについては、大変せんえつながら、私と事務局にご一任いただくということで、ご了解いただきたい。よろしくをお願いしたい。

○それでは、一応今日最後ということになるので、議事以外に何かご提案、ご意見があれば伺いたいが、いかがだろうか。

(委員)

○今度、『麒麟がくる』という大河ドラマで取り上げていただいた。滋賀県はどこを見ても、必ず歴史の舞台がある。それがまだ点でしかない。それを線にして、面にしていけないといけない。私もこの年になってから、またあらためて歴史の深さを感じている。今は歴史の番組もすごく多いが、何か宝の持ち腐れ感がどうしてもいつも残っている。そういうのがもっと面になってつながっていくと、もっといいのではないか。

(会長)

○先ほど、2020年に明智光秀の大河というので、またこれは滋賀にとっては大きなチャンスになるかと思う。そういう大きな波に乗って、面展開を図っていくのが、これからの滋賀の大きな課題になろうかと。今回皆様にご協力いただいたこの答申が、何か大きな方向性を示せるものになればいいと思っている。先ほど申し上げたように、それに沿ってぜひ皆さん、今日はビューローの方にも来ていただいているが、いろいろな関係者の方にご努力いただき、面展開を図っていけるように、私も見守ってまいりたい。

(江島商工観光労働部長)

- いろいろな意見をいただいた。全てにお答えできる時間もないので、感想を2～3させていただきたい。
- まず冒頭にブランドの関係のお話をいただいた。私どもも認知度が26位から20位に上がった、これは喜ばしいことであるが、魅力度が28位から38位に落ちてしまった。これはなぜだろうという、その分析をしなければいけない。ブランド総合研究所との間で意見交換しながら、なぜ滋賀県がこういうことになったのか、クロス分析しながらぜひここは検討したい。それを踏まえながら、答申に反映できればと思っている。それが1点。
- それから、基本方針の中で、何をつなぐのか、続くのかという話があった。これも、かなり限定して書いてしまうと、またそれも矮小化されてしまう。とはいえ、少し分かりにくいところが確かにある。地の文の中で、もう少しその辺を書き込みたい。
- それから、健康の関係でもいくつかの議論をいただいた。ヘルシー滋賀、あるいはwell-beingという新しい言葉をいただいた。例えば外国の方には、ヘルシーはやはり訴えるという話もあったので、戦略⑨のあたりにその辺を色濃く書くなりしていけたらと思う。
- それから、学生の話があった。主体に学生を追加したが、会長から、学生も旅行者であるという、新しい切り口をいただいた。滋賀県は本当に学生がたくさん来ている。ただ、残る方が10%ぐらいしかいない。これは、ほかの県に比べると非常に低い数字である。いる間に、滋賀県のよさを知っていただくのは大事かと思う。これは、われわれだけではできない。ほかの部局とも連携しながらやっていきたい。
- 最後に戦略として、今9つできた。これをいかに戦術に落とししていくかはわれわれの作業だと思っている。来年に向けて、落とし込めるものは落とし込んで、またそれ以降についても落とし込んでいきたい。引き続きご支援たまわりたい。

(会長)

- 今のところで今日の議論を非常に要領よくまとめていただき、課題も明確にしてくれたかと思う。そういう形で、ぜひ事務局にもご努力を引き続きお願いしたい。

(事務局)

- 先ほど説明させていただいたとおり、11月30日金曜日に、新指針策定にあたっての審議会答申を、会長から知事あてにいただきたい。会長には、お忙しいところ申し訳ないが、よろしくをお願いしたい。

○また、今後指針に限らずご意見やご質問等があれば、お気軽に事務局の方までお尋ねいただき、情報交換させていただきたい。何とぞ今後ともよろしく願いたい。

(会長)

○それでは、これをもって全体の議事を終了する。委員の皆さまにはいつも変わらず、議事進行に絶大なるご協力を賜り、誠に感謝する。

(辻井理事)

○会長はじめ皆さん、本当にお忙しい中お集まりいただき、本日も大変貴重なご意見をいただき感謝する。この観光の指針については、昨年12月に諮問させていただき、その後4回にわたって、大変熱心にご議論いただいた。今回このビジョンを取りまとめることができた大変喜んでいるところだが、委員の皆さまからのご指導のおかげである。

○今後の観光振興の方向性になったと、大変喜んでいるところである。本日お集まりいただいた委員の皆さまには、このメンバーの任期としては今日が最後になっている。皆さまには、29年3月の第1回審議会から計6回にわたって、大変さまざまなご議論、ご意見をいただいた。あらためて心から感謝する。

○これから何が大事かという、このビジョン策定後に、実効性のある取り組みに、私もがんばっていきたい。これが大事だと思っている。県としても、先ほどからお話に出ている『麒麟がくる』。最高の機会を得た。この好機を生かして、引き続き観光施策にしっかりと取り組んで、先ほどご意見いただいた面展開、面をさらに立方体にできるようにこれからも考えていく。引き続き、ご指導ご鞭撻いただきたい。

<閉 会>